

「第1期延岡新時代創生総合戦略（H27～R2）の総括」及び「第2期戦略への取り組み」について（まとめ）

1. 第1期戦略（H27～R2）の効果検証について（総括）

第1期戦略においては、4つのプロジェクトを推進するため、各プロジェクトに数値目標と具体的施策を掲げ、全体で21の施策に対して43のKPIを設定しました。これらのKPIの達成率は39%（達成数は17）となっています。

(1)雇用創出プロジェクト

- ・「大学・高校と連携した取組によって誘致企業を含む地元企業へ591人が就職した」ほか、「クレアパーク工業団地において新たに613人が雇用された」など、第1期戦略の取組前まで減少傾向にあった事業所従業者数や労働力率が目標値に近い水準で歯止めがかかっていると考えます。

(2)移住・定住推進プロジェクト

- ・純移動数の実績値は目標値を下回る見込みで、おおむね社人研の推計値通りに人口の社会減が進んでいます。
- ・一方で、令和元年～2年度の5歳階級別現住人口社会動態推移においては25～39歳までの階級で社会動態がプラスとなっていますが、この理由として、コロナ禍の中にあっても一定の雇用創出が実現できたことや、子育て世代も含め、第1期戦略における「移住者向け住宅支援を109戸に実施した」など、新しく世帯を形成する時期や住宅を取得する時期などに延岡市を選択してもらうために行った取組による効果が表れてきていると考えます。

(3)結婚・出産・子育て支援プロジェクト

- ・合計特殊出生率、婚姻数が推計値を上回るなど、プロジェクトの目標を概ね達成する見込みです。
- ・これまで、子ども医療費助成対象の拡大や病児・病後児保育施設の開設、保育園定員の拡大、子育て支援総合拠点施設「えんキッズ」等の子育て家庭に対する支援体制の拡充等の施策を進めており、今後、このような施策をさらに展開していくことにより、若い世代が安心して結婚・子育てできる環境づくりが重要と考えます。

(4)持続可能なまちづくりプロジェクト

- ・「駅まちエリアに31店舗が出店した」ほか、複合施設「エンクロス」の開館、延岡駅前西口街区再開発ビル内での「仕事の拠点」づくり、短期大学の開設などにより、駅まちエリアの賑わいづくりが進んでおり、駅まちエリアに居住する人口は増加傾向となっています。
- ・一方で、三北地域の中心部に居住する人口は減少傾向にありますが、ユネスコエコパークを活用した観光誘客、うみウララエリアを核とした観光プロモーションや基盤整備、「道の駅を拠点とした生活支援システムを構築する3事業者を支援した」など、人口減少の中でも中山間地域における新たな産業振興や生活利便性の維持が必要と考えます。

○各プロジェクト別の数値目標の効果検証

プロジェクト	数値目標	目標値（R2）	実績値（最新値）	効果	KPI設定数	達成数	達成率
1 雇用創出プロジェクト	事業所従業者数	50,555人（R2）	50,991人（H28）	➡	15	7	46%
	労働力率	53.9%（R2）	54.6%（H27）	➡			
2 移住・定住推進プロジェクト	純移動数	▲1,481人 （H27→R2）	▲3,114人 （H22→H27）	➡	14	4	28%
3 結婚・出産・子育て支援プロジェクト	合計特殊出生率	1.77（R2）	1.78（R1）	➡	6	1	16%
	婚姻数	2,744件 （H27→R2）	2,615件 （H27→R1）	➡			
4 持続可能なまちづくりプロジェクト	駅まちエリア居住人口	1,700人	1,631人（R2）	➡	8	5	63%
	三北地域の中心部居住人口	2,900人	2,813人（R2）	➡			
計					43	17	34%

2. 第2期戦略への反映及び策定

本市では、長期総合計画と総合戦略の計画期間の整合性を図るため、第1期戦略の計画期間を1年延長したことから、令和2年度の有識者会議における第1期戦略の効果検証結果等を踏まえ、以下のような考え方に基づいて令和3年3月に第2期延岡新時代創生総合戦略を策定しています。

今回の効果検証結果については、第2期戦略の施策の中で反映していきます。

○第2期総合戦略策定の考え方

- 生産年齢人口の減少緩和を図るための若い世代をターゲットとした雇用の創出や各種産業の振興
- 各種産業等における担い手不足等に対応するためのICTの活用等の強化
- 人口減少緩和を図るため、転入者が少ないといった本市のウィークポイントに対応した取組の強化
- 人口減少社会の中においても、持続可能なまちづくりを進めるための関係人口の創出
- さらなる結婚・出産・子育て支援体制の強化
- 市民が住み続けたいと感じるためのまちの魅力の磨き上げ
- ICTを活用した市民一人ひとりのニーズに合った行政サービスの提供

なお、第2期戦略においては、人口の将来展望として、令和42（2060）年の総人口約80,000人を目指すことを目標として、第1期戦略に引き続き4つのプロジェクト目標を設定し、5年間で重点的に取り組むべき施策・事業を新たに位置付けました。

加えて、各プロジェクトを横断する方針として、①多様な人材の活躍を支援する ②新しい時代の流れを活かす を設定しています。

3. 第1期戦略の取り組み（H27～R2）に対する令和3年度有識者会議における効果検証

令和3年度の有識者会議における第1期戦略（H27～R2）の効果検証については、23人の委員全員から「効果进行评估する」意見をいただいています。

併せて、地方創生に係る取組に対して下記のような意見・要望がありました。

(1)コロナ禍を踏まえた施策に対する意見・要望

- ・コロナ禍に即した取組を進めてほしい。今までの取組ではなく先進的な取組が必要だと思う。
- ・コロナ禍の中、KPI達成に向けて、プラス面とマイナス面を考慮しつつ、様々な変化を前提に、将来のことを考えていく事も必要ではないか。

(2)個別の施策に対する意見・要望

- ・「のべちよる」の有効活用が一つの課題と思う。
- ・大規模災害に強い街であることが必要と思う。地域の中で災害対策を検討している市民の声を具体化できる姿勢が欲しい。

(3)施策全体に対する意見・要望

- ・地方創生関連の事業はソフト的な事業が多くを占めるとは思いますが、なかでも人と人をつなぐ取組み、幅広い年齢、業種の人をつなぐような形の人づくりプロジェクトに注力していただきたい。
予算だけでなく現役世代の人たちが様々な取組に参加しやすくなるような、事業所から協力を得られる仕組みづくりを考えていければいいと思う。
- ・取組（施策）分野をさらに絞り、効果があるものに特化した方が良い。

4. 有識者会議の意見を踏まえた令和3年度以降の第2期延岡新時代創生総合戦略の取組について

第2期戦略の推進にあたっては、コロナ禍の中、施策の目標達成のために解決しなければならない課題を検討し、有識者会議における意見・要望や、国における地方創生に係る方針なども踏まえながら、各団体や市民などと連携し、各施策・事業を展開してまいりたいと考えております。

(1) コロナ禍を踏まえた新たな施策への取組について

- ・政府のスマートシティ関連事業に選定されたことを受け、教育、交通、産業振興などの分野で「市民一人ひとりが主役のまちづくり」の充実に向けた各種デジタル化施策を進めてまいります。
- ・コロナ禍による急速なデジタル化の動きを捉えた企業誘致や地元企業支援策として、今年中に完成予定の延岡駅西口街区再開発ビル2階のフロアを本市のDXの拠点として、「コワーキングスペース」及び「IT企業誘致床」を整備するとともに、「地元事業者リモート時代対応支援事業」や「ウイズコロナ事業改善等支援事業」による支援、さらに複業人材マッチングサイトも活用した（仮称）延岡経済リンケージ機構による地元事業者成長支援に加えて、浜木綿村のケビンや ETO ランドの宿泊施設を活用したワーケーション拠点整備など、国の財政支援も活用しながら積極的に進めていきます。
- ・「のべおか産品 EC サイト『のべちよる』」による地元産品の販売拡大に取り組んでいるほか、農山漁村版ハローワーク事業としての「NobeWorker」を活用した農林業における人材確保支援を推進しています。
- ・北方町や北川町における農業のスマート化に向けた取組等も始まっており、今後第一次産業におけるスマート化も進めてまいります。
- ・のべおか COIN をはじめ、日常の市民生活に密接に関わる分野のデジタル化を進めるとともに、無料スマートフォン講座や事業所向け無料相談会などを行い、「誰一人取り残さない」デジタル化を進めてまいります。
- ・全日空グループから観光戦略課の新分野開拓マネージャーとして人材を受け入れることや、著名 YouTuber の活用によるシティプロモーション、複業人材の活用による情報発信力の強化などにより、積極的に本市のアピールを行うとともに、コロナ収束後のインバウンドも含めた観光振興を見据え取り組んでいきます。

(2) 第2期戦略におけるプロジェクト目標を達成するための施策の取組について

- ・地元事業者と域外をつなぎ、「外貨獲得」を支援するための施策として、（仮称）延岡経済リンケージ機構により、即戦力となる外部人材とのマッチングに取り組むとともに、県外との往来が制限される状況でも外貨を稼ぐために「のべおか産品 EC サイト『のべちよる』」を活用し、新たな販路開拓及び販売促進を図っています。
- ・住民主体の防災対策に取り組むことで災害に強いまちづくりを進めていくために、防災アプリや防災ラジオによる防災情報の発信力の強化や、自主防災組織や区などで実施している防災講話・防災訓練などにおいて地域の方々の声を聞きながら、「第2次津波避難施設等整備計画」の策定や避難行動要支援者に係る個別避難計画の作成、各地区の防災計画作成と連動する形での施設・設備整備の支援を行うこと等により、地域の防災力強化を図っていききたいと考えています。

(3) 施策全体について

- ・新たに制定した「政策形成過程における市民参加条例（パブリックコメント条例）」の活用による市民意見の施策への反映をはじめ、民間企業、各種団体、市民の方々など、地域に関わる一人ひとりが積極的に各プロジェクトに参画できる環境や機会をつくり、多様な市民の意見をできるだけ反映しながら各施策、各事業を展開していきます。
- ・総合戦略に位置づけた事業を効率的かつ効果的に進めていくために、特に先導的な事業については地方創生推進交付金も活用しながら、地域の実情に応じた取組を推進します。

5. 各プロジェクトごとの実績

(1) プロジェクト1 雇用創出プロジェクト



製造業の集積、九州保健福祉大学の機能、メディカルタウン構想など、地域資源を活用した産業振興を図ることで、外貨獲得と安定した雇用の創出という好循環を生み出すためのプロジェクトを実施しました。

○数値目標の達成状況

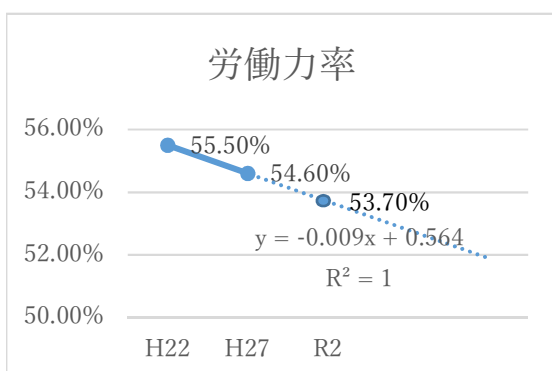
- ・事業所従業者数について、平成 28 年経済センサス活動調査の実績値（R3 時点での最新値）は、50,991 人となっており、人口減少下にあっても、現況値と実績値は同程度で推移しています。また、延岡市に居住する給与収入を有する者の人数は平成 27 年度の 57,316 人から令和 2 年度の 58,943 人へ増加しており、このことから事業所従業者数は増加している状況にあります。これらの数値から、平成 26 年経済センサス基礎調査確定値から設定した事業所従業者数の目標値 50,555 人を既に達成しているのではないかと見込まれます。
- ・労働力率について、平成 27 年国勢調査就業状態等基本集計の実績値（R3 時点での最新値）は 54.6%となっています。平成 22 年度と平成 27 年度の実績値をもとに近似式を求め、その後の 5 年間も同様の傾向が継続していると仮定し、令和 2 年度の労働力率を推計すると、推計値は 53.70%となりますが（下グラフ参照）、一方で上記のように従業者数の増加傾向も見られることなどから、目標値の達成状況は令和 2 年国勢調査就業状態等基本集計を見た上で判断する必要があります。

○KPI の達成状況

- ・達成率の高い KPI として、「累計新規就農者数」116.70%、「地元企業への就職につながった累計人数」112.60%などがあります。
- ・一方で、達成率の低かった KPI として「令和 2 年度の本市主要観光施設利用者数」59.71%などがあります。
本市主要観光施設利用者数は、令和元年度までは約 111 万～118 万人で推移していましたが、コロナの影響を受け、令和 2 年度は約 71.6 万人と大きく減少しました。

数値目標	目 標				
事業所従業者数	推計値よりも、6 年間で減少を 500 人抑制				
	現況値	推計値	目標値	実績値	効果
	50,981 人 (H26)	50,055 人 (R2)	50,555 人 (R2)	50,991 人 (H28)	
労働力率	目 標				
	令和 2 年の労働力率を推計値よりも 0.5 ポイント向上				
	現況値	推計値	目標値	実績値	効果
55.5% (H22)	53.4% (R2)	53.9% (R2)	54.6% (H27)		

KPI 設定数	達成数	達成率
15 件	7 件	46%



(2) プロジェクト2 移住・定住推進プロジェクト

「仕事」、「居住」、「安心」、「環境」、「コミュニティ」、「教育」、「人財」など移住・定住先として選ばれるための取組と、本市の様々な魅力を伝えることで、本市への人の流れをつくためのプロジェクトを実施しました。

○数値目標の達成状況

・純移動数については、平成27年国勢調査の実績値（H22→H27、R3時点での最新値）は▲3,114人となっており、現況値（H17→H22）の▲2,376人から大きく減少しています。一方で、住民基本台帳の集計による人口動態の推移を見ますと、社会動態については、これまで概ね▲500～700人程度で推移してきているものの、令和元年、2年に▲500人未満となっているなど、減少傾向が縮小している状況も見られます。このため、平成27年度から令和2年度までの純移動数の実績値は、令和2年国勢調査の実績値を見た上で判断する必要があります。


それに関連して、令和元年度以降、25歳から39歳の人口が増加に転じていることから、この流れを確かなものにしていく必要があります。

○KPIの達成状況

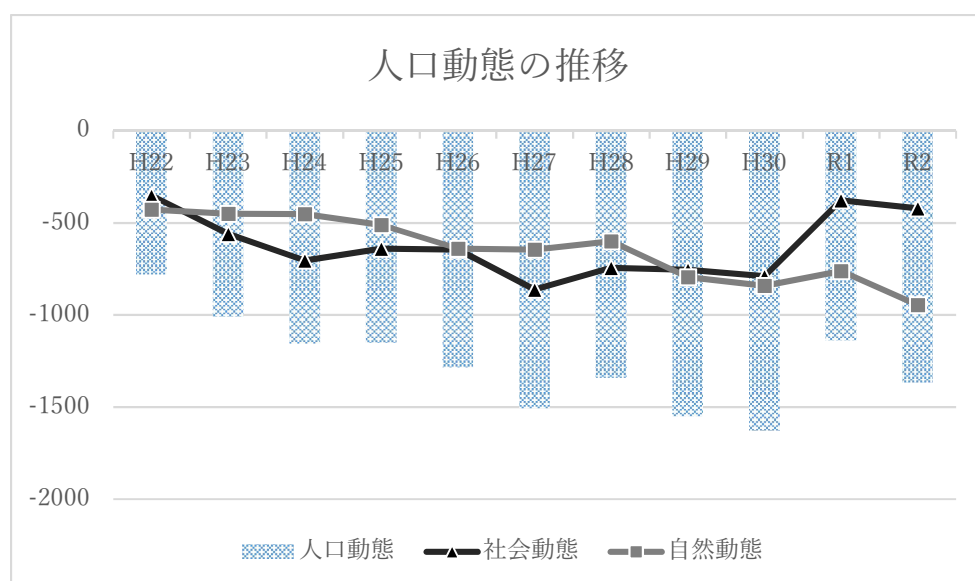
・達成率の高いKPIとして、「累計移住者数」111.50%、「北浦臨海パークへの累計集客数」115.50%などがあります。

・一方で、達成率の低かったKPIとして「令和2年度の市外からの合宿延べ宿泊人数」37.80%などがあります。

市外からの合宿延べ宿泊人数は、令和元年度までは約5千人から6千人で推移し、ある程度目標値（6,000人/年）に近い水準となっていました。コロナの影響を受け、合宿が中止になったこと等により、令和2年度は約2千人と大きく減少しました。

数値目標	目 標				
純移動数	推計値よりも、6年間で社会減を840人抑制				
	現況値	推計値	目標値	実績値	効果
	▲2,376人 (H17→H22)	▲2,321人 (H27→R2)	▲1,481人 (H27→R2)	▲3,114人 (H22→H27)	

KPI 設定数	達成数	達成率
14件	4件	28%



(3) プロジェクト3 結婚・出産・子育て支援プロジェクト



結婚、妊娠、出産、子育て、仕事と育児の両立等の各段階に応じた切れ目のない対策を進めることで、若い世代が、安心して結婚・子育てできる環境づくりに取り組むためのプロジェクトを実施しました。

○数値目標の達成状況

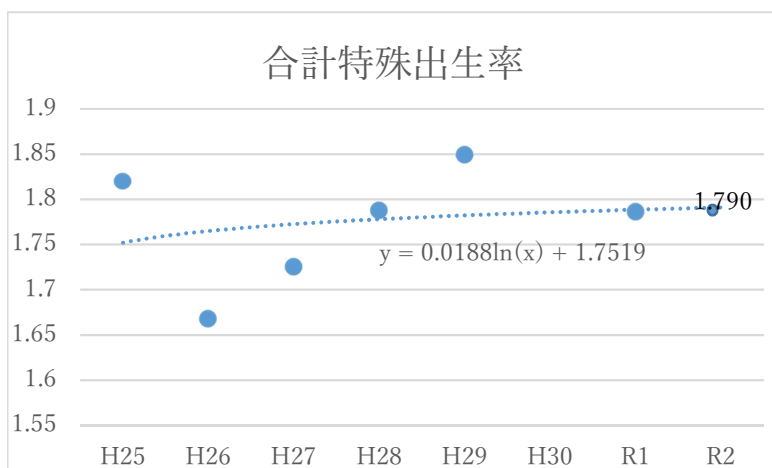
- ・合計特殊出生率については、宮崎県衛生統計年報に基づき試算した令和元年実績値は1.78です。平成25年から令和元年までの合計特殊出生率の実績値（延岡市の独自推計値）から近似式を求め、令和2年度も同様の傾向が続くと仮定すると、令和2年度の合計特殊出生率は1.79と推測されます。このため、令和2年度の合計特殊出生率の実績値は、目標値1.77をおおむね達成する見込みと考えられます。
- ・婚姻数については、人口動態総覧において、平成27年から令和元年の5年間の累計が2,615件です。この累計数に令和2年度の婚姻数の実績値が加算されることを考慮すると、目標値2,744件を達成する見込みと考えられます。

○KPIの達成状況

- ・達成率の高いKPIとして、「産婦人科医数6名の維持」100%や、「多子世帯数」99.20%があります。
- ・一方で、達成率の低かったKPIとして「子育て支援施設【(愛称) えんキッズ】の延べ利用者数」2%などがあります。建設地の土砂の入れ替えが法律上必要になるなど、整備が諸事情により遅れたことにより、子育て支援施設が令和3年2月にプレオープンしたため、延べ利用者数が430人となりました。

数値目標	目 標				
合計特殊出生率	推計値よりも、0.16 向上				
	現況値	推計値	目標値	実績値	効果
	1.69 (H20～H24)	1.58 (R2 社人研)	1.77 (H25～R2)	1.78 (R1)	
婚姻数	目 標				
	推計値より、6年間で96件増加				
	現況値	推計値	目標値	実績値	効果
605件 (H25)	2,648件 (H27～R1)	2,744件 (H27～R2)	2,615件 (H27～R1)		

KPI 設定数	達成数	達成率
6 件	1 件	16%



(4) プロジェクト 4 持続可能なまちづくりプロジェクト



人口減少を的確に捉え、都市のコンパクト経営と中山間地域等における安心、安全な生活機能の維持を図りながら、市民が誇りの持てるまちづくりを進めるためのプロジェクトを実施しました。

○数値目標の達成状況

- ・ 駅まちエリア居住人口については、令和 2 年現住人口実績値が 1,631 人で、目標値 1,700 人を下回りましたが、推計値を上回っており、人口が増加傾向と考えられます。
- ・ 三北地域の中心部居住人口については、令和 2 年現住人口実績値が 2,813 人と目標値 2,900 人を下回っており、概ね推計値通りとなっています。

○KPI の達成状況

- ・ 達成率の高い KPI として、「駅まちエリアの新規出店数」124%、「道の駅を拠点とした生活支援システムの構築支援件数」100%などがあります。
- ・ 一方で、達成率の低かった KPI として「自主防災組織数」72.50%があります。達成率が低くなった原因の一つとして、新型コロナウイルスの影響により、各地区での集会や総会が行えず、組織結成に至らなかったということが考えられます。

数値目標	目 標				
駅まちエ リア居住人口	推計値より、6年間で256人増加				
	現況値	推計値	目標値	実績値	効果
	1,463人 (H26)	1,444人 (R1)	1,700人 (R2)	1,631人 (R2)	
三北地 域の中心部 居住人口	目 標				
	推計値より、6年間で人口減少を35人抑制				
	現況値	推計値	目標値	実績値	効果
3,194人 (H26)	2,865人 (R1)	2,900人 (R2)	2,813人 (R2)		

KPI 設定数	達成数	達成率
8 件	5 件	63%

